

# グローバルキャリアサポートプログラム

— “世界市民” 育成に向けて —

## Global Career Supporting Program:

## For Nurturing “World Citizens”

関西学院大学キャリアセンター課長補佐 弓山 大輔

YUMIYAMA Daisuke

(Assistant Head, Career Planning and Placement Section, KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY)

キーワード：世界市民、Mastery for Service、海外留学

### 一. 「国際化」の経緯

関西学院は、1889年にW. R. ランバスによって創立され、今秋125周年を迎えました。ランバスは、アジアや欧米をはじめ、アフリカ、南米、シベリアにいたるまで、医療宣教師として国境や民族の壁を越えて多くの人々を救い、「世界市民」としての生涯を送りました。創立者の生き方を受けて関西学院に「国際化」の風土が生まれ、思いやりと高潔さを持って社会の変革に挑む「世界市民」を育成する関西学院のミッションが生まれました。関西学院は、2009年を起点として10年後を見据えた「新基本構想」を策定し、到達すべき目標を6つのビジョンとして決めました。これを実現するために、「新中期計画」に沿って事業展開を進める中で、ビジョンの一つ「国際化」を実現すべく、世界展開力強化（海外協定大学や海外拠点の増加等）、国際教育プログラム（留学等）の拡充、留学生支援体制の強化等を行ってきました。例えば、国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携は、本学の特徴的なプログラムの一つで、国連ボランティア計画（UNV）との協定に基づき、学生を開発途上国に派遣する「国連ユースボランティア」には2013年度までに70名以上が参加しています。さらに2013年度からは「国際社会貢献活動」を新設し、国際協力機構（JICA）が行う青年海外協力隊事業への参加機会がある他、海外の教育機関やNGO事務へ派遣し、世界に貢献できるたくましい学生を育てています。また、日本人学生の海外留学への派遣については、2008年度413名から2013年度1,037名まで約2.5倍に増加しています。

このように「国際化」を強力に推進している本学では、留学経験者のキャリア・就職支援という社

会への送り出しに対しての期待もまた、年々急速に高まりを見せている状況です。

## 二. 社会で求められる力

本学では、来校される企業の採用担当者へのヒアリングや本学職員による企業訪問を通じて、採用動向等を随時把握しています。この中で、日本人の留学経験者の採用については、企業等からの意見を踏まえ、的確な支援を行う必要があると考えています。日本人の留学経験者は、現在、全国的に約5.7万人と相当数にのぼり、就職活動の場で留学経験を自身の強みとしてPRする学生も少なくありません。このため、留学経験が他学生との差別化要因にならない状況が発生しており、企業の採用担当者からは、「留学経験から語学力を強調するのはありきたり」といった率直な意見を耳にすることが多くなっています。多くの企業では、「留学へ行った事実ではなく、何のために留学したのか、留学により得た付加価値を聞きたい」というように、留学という一連のプロセスの中で、学生が体得した目的意識・主体性・問題解決力などを掘り下げて聞き出す工夫をしています。他方で学生側は、「留学中の考えや行動を通じて、得たことは何か、その後どのように磨き活かしていこうとしているのか」というように、留学の振り返りと将来のキャリアビジョンを具体的に考え、面接官に分かりやすく伝えることが必要となっています。また、実際に企業で働く場合に求められるのは、語学力だけではなく、異文化の中でも他者の価値観を認め議論できる力や不明瞭なことでも勇気を持って一步踏み出すバイタリティ等が挙げられます。留学中には、日本とは異なる社会の中で様々な壁を乗り越えていく必要があるため、これらの力を強化する機会が多くありますが、学生は語学力の向上に専念しがちなので、留学に行く前の意識付けが非常に重要となっています。

我々キャリアセンター教職員は、以上のようなポイントが社会及び企業から求められ、評価されているということをしっかりと学生が認識するよう、支援しなければならないと考えています。

## 三. グローバル人材育成に向けて

本学では、世界で活躍するために必要な知識、スキル、国際性、実践力を身に付けることを目的とした本学独自のプログラム「実践型“世界市民”育成プログラム」を展開しており、2012年度に文部科学省が推進する「グローバル人材育成推進事業(全学推進型)」に採択されました。本プログラムは、海外への渡航を前提として、語学力やコミュニケーション能力の向上はもちろんのこと、異文化への理解や海外の人と協働してプロジェクトを推進する力等、グローバル社会で活躍できる人材を目指し、以下のように入学から卒業までに段階的に修得を促すものです。(2014年9月までのプログラム登録者は1520名。)

**【渡航前（1～2年生）】**

国際情勢に関する専門的知識の習得及び語学力の向上を目指す。(世界市民論、グローバルゼミⅠ、グローバルキャリアデザイン入門等)。

**【渡航中（2～3年生）】**

海外での実践学習を通じて、これまでに習得した能力を活用し、自分の学びを深める。(国連ユースボランティア、交換留学、中期留学、海外インターンシッププログラム等)。

**【渡航後（4年生）】**

各学部の専門教育や語学教育プログラムを通じて、外国語能力や専門知識のレベルアップを目指す。(スーパー・アドバンスト・イングリッシュ、CROSS-CULTURAL-COLLEGE (※)等)。

※CROSS-CULTURAL-COLLEGE: 100年を超えるカナダとの交流を基盤に、マウント・アリソン大学、クイーンズ大学、トロント大学と連携した約2週間～1カ月間のプログラム。日本とカナダの学生が寝食を共にしながら課題解決等に挑む実践的な科目を中心としており、期間中には、グローバルに展開する企業で約1週間の就業体験ができる。

これらは、本学の国際教育プログラムの一部となります。種々のプログラムを通じて、学生自身の人間力を高めていき、次の就職活動へと繋げています。

**四. 就職支援プログラムの紹介**

本学では、留学経験者が就職を考えるにあたって、留学前・留学中・留学後を通じて「何のための留学なのか」、「留学経験をどのように活かしていきたいか」ということを考える機会を持つことが大事であると捉え、各種プログラムを展開しています。

**<留学前のサポート>****●出国前セミナー**

留学前に計3回開催する「交換留学事前研修」の第1回目のプログラムとして実施しているものです。留学することのみで満足するのではなく、「何のために留学をするのか」等、留学に向けての目標設定をすることで、将来に向けたライフデザインや社会への参画を意識させることを目的としています。留学経験のある内定者や社会人より、これから留学に向かう学生に対し、留学中の体験談やメッセージを伝えてもらうことによって、留学に対する目的意識の向上を図っています。

参加した学生の約96%が「役に立った」とアンケートに回答しており、コメントからも高い成果があったことが伺えました。《コメント例：自分自身の意志の持ちようが大事ということや、経験ではなく何を学ぶことが大切かということが聞けてよかったです。》

○プログラム内容

【第1部】

将来のキャリアを意識した留学～企業から求められるグローバル人財となる～

外部講師による、留学経験者の就職活動状況や採用市場の動向、企業側の視点等の講演。

【第2部】

在学生留学経験者の声

留学経験のある在学生(内定者)から、留学中の過ごし方や就職活動への活かし方の紹介。

【第3部】

卒業生留学経験者の声

企業で働いている卒業生から、留学経験が就職先でどのように活かしているか等の紹介。

○開催時期：4月中旬

<留学中のサポート>

●キャリア支援プログラムの情報提供

留学中にも就職活動の準備ができるように、本学学生専用の就職支援サイト「KGキャリアナビ」を通じて、日本で開催している本学のキャリアセンタープログラム（就職活動の進め方や筆記試験対策、エントリーシート作成の考え方等を説明）を閲覧できるように動画配信を実施しています。また、同サイトでは、求人情報や各種就職イベントの情報検索に加えて、企業情報検索による企業研究も行うことができます。

●メール配信による情報提供

帰国後すぐに就職活動が進められるように、キャリア支援プログラム以外にも就職支援情報を随時メール配信。また、海外で開催される合同就職説明会「ポストンキャリアフォーラム」や就職支援サイト「Offer Box Global(※)」の活用方法についての情報等も配信しています。

※学生がプロフィールを登録しておけば、留学先にいながら活用企業・団体から選考へのオファーが届く就職支援サイト。

<留学後のサポート>

【帰国時3年生対象】

●帰国後学生対象セミナー

帰国後すぐに就職活動に臨むための支援セミナーとして開催しています。「留学・海外経験があること自体が就職活動においてプラスに働くわけではなく、社会（産業界）が留学経験者に期待するもの

を再認識させる」ことを目的としており、留学・海外経験を経たからこそできることを洗い出し、自己分析をすることで、グローバルリーダーとして求められる資質が何であるかを考える機会としています。また、就職活動スケジュールが変更となる2016年3月卒業予定者には、就職活動の対策が帰国後すぐにできるよう、筆記試験対策の案内とキャリアガイダンスの告知、グローバル企業を中心とした夏季休暇中インターンシップの参加を勧めています。本セミナーでは、参加した学生の約73%が「役に立った」とアンケートに回答しており、学生自身で自分の経験を振り返り、深く考える良い機会になったと捉えています。《コメント例：留学に行った意義について、改めて考えるきっかけになりました。また、就活に対して、良い意味で焦りを感じることができました。》

## ○プログラム内容

### 【第1部】

#### (1) 就職活動に関する全体説明

就職スケジュール、採用市場・企業動向、企業が留学生に求める力等。

#### (2) 留学経験の活かし方

##### ①留学中の経験振り返り。(個人ワーク)

異文化の中で考えたこと、行動(プロセス)、結果を明確にし、自分の強みを見つける。

##### ②働くイメージ作り。(個人ワーク)

強みから働くイメージを具体的に作り、現在との差を認識し、行動目標へと落とし込む。

#### (3) 就職活動の進め方

企業の探し方、就職活動の進め方等、具体的な説明を行う。

### 【第2部】

卒業生、内定者による体験談を聴講。

- ・内定者からは留学経験を活かして、どのように就職活動を行ったかの紹介。
- ・卒業生からは、実際に社会に出た後に、仕事上で留学経験が役に立ったと感じたこと等、本人の具体的なエピソードを交えての紹介。

## ○開催時期：7月上旬

### 【帰国時4年生対象】

#### ●学内企業説明会 兼 選考会 (2013年度のみ開催)

交換留学経験がある学生や大学時代に6カ月以上の海外渡航経験がある学生等を対象として、企業をお招きし、学内企業説明会 兼 選考会を開催しましたが、想定していた「留学直後でこれから就職活動を開始する」という学生達の参加が少ない状況でした。これは、留学の帰国時期が一律ではなく、一人ひとり就職活動の開始時期が異なることや、自ら能動的に活動を進めることができる学生が

多いことが要因でした。そのため、本年度は、帰国直後の学生向けに早期からキャリアセンターでの個人面談の利用へ誘導し、留学経験を活かした就職活動のサポートをすると共に、企業の選考会への参加を促しています。

## 五、最後に

グローバル化の急速な進展に伴い、各国の政治・経済が大きく変革し、企業・団体の活動も日々変わり続けています。変化が激しい時代の中で、大学も国内のみならず海外の動向を踏まえ、柔軟に仕組みを作り変えながら将来のグローバル人材の育成に寄与していく必要があります。

本学のスクールモットーである“Mastery for Service”は「奉仕のための練達」と訳され、隣人、社会、世界に仕えるため、自らを鍛えるという関西学院大学の人間としてのあり方を示しています。この姿勢を持ちながら、自らを取り巻くグローバル社会を認識し、新しい道を切り拓いていくことができる人材の育成を目指し、本学では今後もグローバルキャリアサポートプログラムを強く推進していきたいと考えています。